意見陳述

岩本俊紀

初めまして。原告の岩本俊紀と申します。

私は名護市民ではなく那覇でダイビングショップを経営しています。

沖縄に移住して24年、ダイビングショップを開業して16年になりますが、なぜ今回この裁判の原告となっているのか。それは、辺野古大浦湾で潜り、この海の価値について十分理解し、この海から多くの感動をもらってきたからこそ、この海を思う強い気持ちがあるからです。

沖縄に移住する前、そして移住してきた後も、私は基地問題については全く関心がありませんでした。沖縄に来たのも、美しい海に囲まれた場所でダイビングの仕事がしたいという理由であり、それまで政治活動に関わったことはありません。沖縄に来てからも独立するまで、基地問題について深く掘り下げたことはありませんでした。

しかし、独立して間もないころ、今回の裁判で原告になっている東恩納琢磨さんをご紹介いただき、大浦湾で潜るきっかけをいただきました。初めて潜ったとき、大浦湾のサンゴや水中環境の素晴らしさに惹きつけられました。同時に、この海が軍事基地として埋め立て計画があることに疑問を持ち始めたのもこの頃からです。そして、海に潜ることを仕事とする者として、どうしてもこの海を守りたい、守らなければならないと強く思うようになりました。そこから、少しずつではありますが、辺野古・大浦湾の埋立て、そして沖縄の基地問題について学ぶようになりました。

それまで基地問題に全く興味を持たなかった私が、大浦湾で潜ったことが関心を持つきっかけになったように、ダイビングに来られるお客様に、この問題について関心をもってもらうためには、まずは実際に大浦湾で潜って、その素晴らしさを知ってもらうことから始めようと、大浦湾ツアーでは、ダイビングを通じてこの海の素晴らしさと基地問題とをリンクしてご案内するようにしています。

通常、基地問題に関する話は仕事に持ち込みたくないものだと思います。しかし、私がダイビングを通じてこのような活動をするのは、新基地建設によってこの海が壊滅的な状況になってしまえば、この素晴らしい海の景色が見られなくなると同時に、私自身大浦湾で仕事ができなくなるという危機感からです。

大浦湾の最大の特徴は【やんばるの森➡川➡海が繋がった生物多様性】にあります。

大浦湾には絶滅危惧種を含む5300種以上の生物が生息しているということが、国の調査を通じて明らかになっています。これがどれだけ価値があり素晴しい環境かと言えば、世界的な観光地ハワイと比較した場合、ハワイ諸島は日本の約4倍の面積に生き物は約7000種、対して大浦湾はわずか20k㎡に5300種以上であって、その密度は極めて高いものです。

日本の面積の約4倍のハワイ諸島と、国土の0.6％である沖縄のしかも湾という極めて狭小な海との比較です。それはまさに、辺野古・大浦湾周辺は、「森➡川➡海」の繋がりがあるという、自然のままの状態が極めて良いからこそ、この圧倒的な生物多様性が保たれている訳です。

超難関工事と言われている大浦湾側の地盤改良が、もし向こう何年にも渡り行われた場合、

マヨネーズ状の泥は大浦湾全体に拡散され、大変な濁りが大浦湾全体を覆い尽くし、自然環境は破壊され、沖縄本島でも屈指のサンゴ群は死滅の道を辿るのは火を見るよりも明らかです。

環境に配慮した埋め立てなどあり得ないと、私は考えています。

汚濁防止膜をいくら張り巡らせたとしても、泥混じりの海水は膜の隙間を流れ拡散していき、海の透明度が悪くなるとサンゴは光合成ができなくなるばかりか、泥を被り続けると死んでしまいます。サンゴは海の生態系の基礎を司る重要な役割があるため、生物多様性を誇る大浦湾はいずれ墓場化してしまう可能性があることを危惧します。

そうなれば海の中を観光資源とするダイビング業、グラスボート業は仕事として成り立たなくなってしまい、この新基地工事が私たちの仕事に深刻な影響を及ぼすことは言うまでもありません。

裁判官のみなさん、是非、大浦湾の海の中の様子を実際にご覧になってください。

シュノーケルや体験ダイビングが難しいならば、せめてグラスボートに乗って海の中の様子を見てください。辺野古大浦湾の海そのものが、沖縄にとって貴重な観光資源だということを忘れないでください。

最後に、今回原告としてのダイビング事業者は私一人ですが、私の後ろには大浦湾で潜っている多くのダイビング事業者がいます。そして、ダイビング事業者の後ろには、大浦湾で潜ることを楽しみにしている多くのお客様がいるということも、忘れないでください。

以上をもちまして、私の意見陳述といたします。

令和5年1／31

Dive Shop桜海　代表 岩本俊紀